

口腔微生物学特論・実習

《キーワード》 齶蝕原性細菌、歯周病原細菌、齶蝕及び歯周病病原因子、消毒薬・抗菌薬、定量的PCR法

《担当者名》 永野 恵司 宮川 博史

【概要】

口腔は様々な細菌が発育できる環境であり、部位に特徴的な口腔バイオフィルムを形成することにより、齶蝕や歯周病を代表とする口腔感染症を引き起こす。齶蝕や歯周病の発症機序を理解し、齶蝕及び歯周病の病原細菌とその病原因子を解明することは重要である。また、予防・治療に当たっては、口腔バイオフィルムを制御することが重要であり、抗菌薬や消毒薬のバイオフィルムに対する動態についても十分に理解する必要がある。

本特論では、齶蝕及び歯周病の病原細菌の定量法やその病原因子の分子生物学的特徴とその測定の方法について理解するとともに、消毒薬や抗菌薬などによる口腔バイオフィルムの制御について理解する。

【学修目標】

1. 代表的な齶蝕原性細菌の病原性に関連した解析法について説明できる。
2. 代表的な歯周病原性細菌及びその病原因子の解析法について説明できる。
3. 消毒薬・抗菌薬における感染症の制御について説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|----------------------------------|-------------|----------------|
| 1 | 定量的PCR法による齶蝕原性細菌種や歯周病原性細菌種の解析 | | 永野 恵司 宮川 博史 |
| 2 | 齶蝕原性細菌の病原性に関連した性状の解析 | | 永野 恵司 宮川 博史 |
| 3 | 歯周病原性細菌の培養とその病原因子や揮発性硫黄化合物の解析 | | 永野 恵司 宮川 博史 |
| 4 | 浮遊細菌とバイオフィルム形成細菌に対する抗菌薬・消毒薬の効果比較 | | 永野 恵司 宮川 博史 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【学修の準備】

提示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献講読をしておくことが望ましい。